情報モラル教育	郡山市立湖南小中学校

キーワード：系統性、かかわりとつながり、伝えあい・学びあい、異学年交流、家庭教育

Ⅰ　研究について

１　情報モラル教育に関しての学校課題

本校は義務教育学校であり、前期課程と後期課程の指導のつながりを見据えながら小中一貫の学習・生活指導ができる。また、全教科で ICT 機器を積極的に活用した授業を行っており、児童生徒は日常的にタブレット端末に触れているため、操作技能に優れている。一方で、児童生徒を対象に行った学校生活アンケートからメディアの使用時間や利用方法、モラルに関して問題や課題が多いのが現状である。

情報モラル教育研究校として指定を受け、今年度は３年目となり、課題解決のために組織的に取り組んできた。具体的には、学活や道徳での情報モラル教育を取り入れた授業の実践や国語科や技術科を中心に教科等横断的な視点で情報モラル教育を進めてきた。また、算数・数学科、理科、社会科、英語科の各教科でも教科の特質を生かしながら、情報モラル教育の実践を積み重ねてきた。これらの実践から、どの教科でも情報モラルについて触れることができることを確認できたとともに、教員の指導力向上、日常生活と情報モラルのつながり、受信者・発信者として必要な力の育成などの成果を得ることができた。

しかし、児童・生徒ばかりでなく保護者の意識も高まってきてはいるが、家庭や地域の情報モラル教育に対する認識の差はまだまだ大きいため、今年度は、保護者対象の講演会にとどまらず、あらゆる場面で家庭との連携を深めていきたい。

また、ウェブサイトの記事の作成を通して、個人情報保護を念頭においた情報発信の授業をどの学年でも取り組めるように発達段階に応じた指導を行い、全学年で共通して、授業を行っていきたい。

２　本校の研究テーマ

【学校目標】
３つの“あい”でつながる教育

⇒

共生 認めあい	探究 学びあい	克己 頑張りあい

本校の情報モラル教育のテーマ

Ｒ３（１年次）　　誰にでもできる情報モラル教育をめざして
Ｒ４（２年次）　　教科等横断的な情報モラル教育の着実な実践
Ｒ５（３年次）
○　９年間がつながりあう、系統性のある情報モラル教育
○　異学年交流で伝えあい、共に学びあう情報モラル教育
○　学校と家庭・地域がつながり、児童生徒を支えあう情報モラル教育

3　実践概要（授業実践、授業研究会等）

時　期	実　施　内　容
５月１０日	第１回　校内研修「メディアリテラシー育成事業の方向性」について
６月　７日	第２回　校内研修「生徒・保護者アンケート」について
６月２０日	○　ふくしま情報モラル診断の実施
６月２１日	第３回　校内研修「教材の作成」について
７月１０日	○　研究授業（第１・２学年　学級活動（３））
８月３０日	第４回　校内研修「教材の作成」について
９月１９日	○　研究授業（第３・４学年　国語科・総合的な学習の時間）
	○　ふくしま情報モラル教育アドバイザーによる講演会（児童向け）
１１月　１日	第５回　校内研修「教材の作成」について
１１月２１日	○　研究授業（第９・３学年　学級活動（２））
１１月２４日	第６回　校内研修「教材の作成」について
１１月２９日	第７回　校内研修「生徒・保護者アンケート」について
１２月　３日	○　研究授業（第７学年　道徳科）
	○　ふくしま情報モラル教育アドバイザーによる講演会（生徒・保護者向け）
	○　ふくしま情報モラル診断の実施
１２月１３日	第８回　校内研修「実践のまとめ」について
１月中旬	第９回　校内研修「情報教育全体計画」について
3月上旬	○　ふくしま情報モラル診断の実施

Ⅱ　研究の実際について

1　校内授業研究会での実践等

今年度は、児童生徒の情報リテラシーの向上をねらいとし、３つのテーマに基づき授業実践を行なってきた。また、GIGA ワークブック等も活用し、指導案の中には、アイコンを提示し、どの場面で、どのような内容で情報モラルの指導を行うのか視覚的にわかるように実践を行い、

【情報モラル活用場面アイコン】

GIGA ワークブック指導資料

研究を進めてきた。

（１）　第１・２学年　学級活動（３）

「学習でのタブレット使い方」

（７月１０日）

本授業の内容は、学級活動（３）「一人一人のキャリア形成と自己実現　ア　現在や将来に希望や目標をもって生きる意欲や態度の育成」とし、本授業をＩＣＴ活用や情報リテラシーの最も大切にしたい基礎と位置付け、本校情報モラル教育年間指導計画に則り、教科等横断的な指導のみならず、**９年間の系統性**や更にその先の将来に渡った情報活用能力の育成まで繋げることを目標とした。

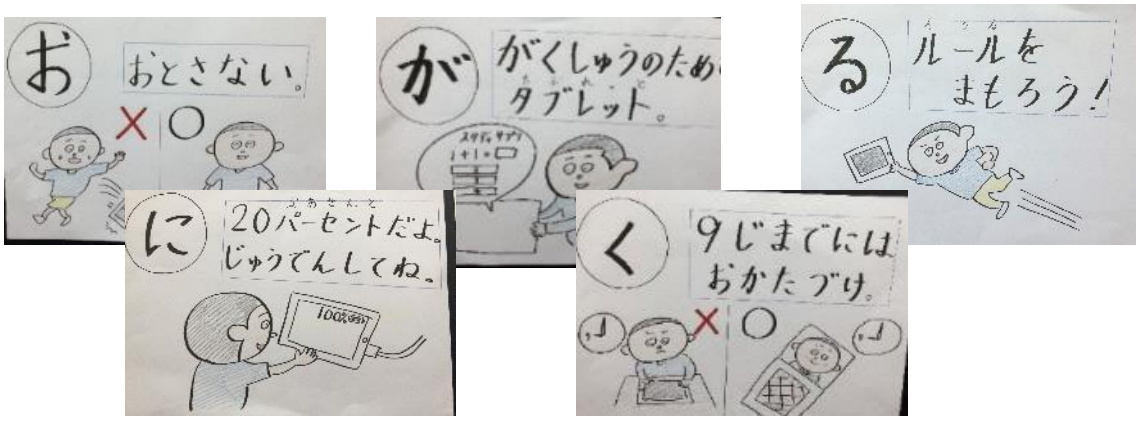
①　初めての授業中のタブレット

本時では、夏季休業中にタブレット端末を家庭に持ち帰り、有効に活用するために、１年生は初めて授業で使うタブレットに心を躍らせながらも、簡易的な使い方を２年生に教えてもらいながら、操作に慣れていく活動を行った。提出箱に提出できた時や上手に絵が描けた時、スタディサプリで問題をどんどん進めることができた時の自信に満ちた目は輝いているように見えた。

②　ICT 機器活用型の情報モラル教育

様々な活動を通して、タブレットを使用する際のルールやきまりの確認を行った。「自分の写真を撮影して提出しよう」という課題に対しては、提出後に「写真を送るときには注意しなければいけない」という説明を加えた。

授業の最後には、家庭でタブレット端末を使用する際に気を付けることを子どもたち自身の意見を参考にして確認した。また、本時は１年生から生涯にわたっての礎となる家庭でのタブレット端末の使い方のルールについて子どもたちから出た意見を活用し、「おにがくる」という頭文字を取って、分かりやすく確認した。



（２） 第３・４学年　国語科・総合的な学習の時間

「インターネットや本を使った取材の仕方をマスターしよう」

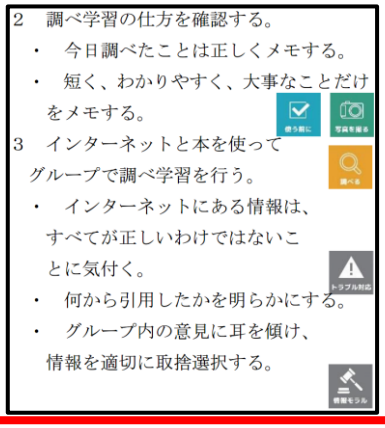
（９月１９日）

① **教科等横断的な視点に立った異学年交流**

本単元では、第３学年の総合的な学習の時間の内容と、第４学年の国語科の内容で重なる部分に着目し、互いに関わりながら授業を行うことで双方の学習がより深まると考え、クロスポイントを異教科合同で実施した。本時では、調べ学習を繰り返す中で、情報を適切に取捨選択する力の育成を意識しつつ、出典や引用という用語も確認し、根拠を明確に示しながら情報の正しさをまとめるという国語的な部分も大切にした。

また、調べ学習の時間では、「この情報は正しいかどうか」、互いに意見を出し合いながら考える姿が見られた。意図的に学年をまたいだ班を編成し、異学年が交流し学び合う場を設定したことで、新たな集団の中で様々な価値観にふれるきっかけになったと考える。

班で活動する様子



2　調べ学習の仕方を確認する。
・　今日調べたことは正しくメモする。
・　短く、わかりやすく、大事なことだけをメモする。
3　インターネットと本を使ってグループで調べ学習を行う。
・　インターネットにある情報は、すべてが正しいわけではないことに気付く。
・　何から引用したかを明らかにする。
・　グループ内の意見に耳を傾け、情報を適切に取捨選択する。

アイコンの場所で情報モラルについて指導

② 多くの情報から信頼性の高いものを見極める力

次世代を担う子どもたちは、情報化社会の中で、メディアや検索サイトの特性を理解し、多くの情報から信頼性の高いものを見極める力がより一層求められていくと考えられる。そこで、本時では、新聞を教材とし、インターネットで記事内容を調べることを通して、情報の集め方や利用上の注意などについて指導しながら、情報を正しく利用する力や適切に情報を見極める力を育むことを目指した。

特定のウェブサイトについて考える場面

導入で、児童たちに特定のウェブサイトを提示した。すると、数人が「あれ？このサイトの情報、間違っているよ！」と気付いた。その際、教師が「インターネットに載っている情報だから本当なのでは」と問いかけると、児童たちは「資料館で調べた情報のほうが正しいのでは」などと対話を行い、ネット上の情報はすべて正しいわけではないことを確認した。その後の調べ学習では、「２００４年に野口英世は名前を変えたらし

いよ。」「いや、２００４年ではないよ。こっちの方が正しいよ。」と一度立ち止まり情報を吟味する姿や、「複数のウェブサイトに書いてある情報だったら、正しいよ。」と正しい情報を見分ける方法を考えながら活動する姿が見られた。

今日分かった事
インターネットは正しいわけじゃ無い。
次の時間に頑張りたい事
くわしくしらべて書きたい

今日分かったことは、野口英世記念館の開館日と、野口英世が名前を変えた理由。インターネットには間違った情報もあるけど1つ情報を見つけたら、その情報があっているかどうか、他のページでも調べて、何個かあっているのがあったらその情報を使った。

インターネットでは、間違えていることもあるから正しいかどうかを判断する
引用　出典　を忘れたりしないようにする
人が聞いてもわかりやすい言葉で検索するといいサイトが見つかりやすい

児童の振り返り

（３）　第３・９学年　学級活動（２）

「ホームページの記事の書き方」「情報の発信者として」（１１月２１日）

①　ホームページの特性

本校は、１年生から９年生まで在籍し、地域と関連した行事も多いため、本校のホームページの記事の種類や量が豊富である。それにより、保護者だけでなく、地域の人など、他の人も閲覧することが可能であることに気付かせることができた。そのことから、ホームページの記事が、写真や記事の内容に十分配慮した上で、掲載されていることに気付かせた。

②　情報をネットに公開する際の注意点と発信する力

体育での合同授業の内容をどのようにすれば、上手に情報を伝えることができ、どんなことに気を付ければよいかを考えさせた。

そこで、教師側が例として作成した記事を紹介し、３年生には「載せたい記事はどれか」、９年生には「載せてはいけない記事はどれか」について、アンケートをとり、意見の違いから異学年ならではの学びあいをすることができた。その記事をもとに情報を発信する際にどんなことに気を付けなければいけないのか気付き、考えることができた。「いつ」「だれが」「どのような活動内容だったか」を誰が見ても、どんなことをしたかが分かる情報を載せることが必要であると気付くことができた。

３年生と９年生で考えを共有

気をつける事
個人情報をうつさないか許可を取る詳しくいつ、どこで、誰が、なにをしたか、感想、などの記事を書く

３年生の振り返り

〈写真〉
- 個人情報が映らないようにする
- まわりの風景に個人情報(名前、所、車のナンバー)が映っていないかを確認する

〈内容〉
- 見た人が読んでわかりやすい（いつ、どこで、だれが、なにをしたのかが書かれている）文にする

９年生の振り返り

また、「プライバシー」や「写真に写っている人の気持ち」、「相手の許可が必要」など、情報リテラシーの観点からも注意すべき事に気付くことができた。

３年生は「個人情報を載せない、内容は詳しく書く」、９年生は「個人情報だけでなく、周りの風景にも注意が必要」ということに気付き、発達段階に応じた考えをもつことができた。

この授業を通して、ホームページだけでなく、ＳＮＳなどにも掲載、投稿する際には、個人情報に気を付けたり、相手に同意をとったりすることが大切であることに気付くことができた。また、受信する側のことを考え、分かりやすい記事にする必要があることにも気付くことができた。児童、生徒たちは、意見を交換していくなかで、「この内容だとうまく伝わらないよね。」や「名前が分かっちゃうから、違う写真にしたほうがいいよね。」という発言があるなど、注意点を自分事として捉えることができた。

実際に作成した記事

（４） 第７学年　道徳科（１２月３日）

① GIGA ワークブックの活用

本時では「GIGA ワークブックこおりやま」を資料として用い、自分が言われて嫌だと感じる言葉を共有した。グループで、互いに自分が嫌だと感じる言葉を伝えあったことで、自分にとって嫌な言葉が相手にとっては嫌ではない場合があるなど、自分と相手との感じ方には違いがあることを理解することができた。また、ロールプレイを通して、「まじめだね」を文字だけで伝えた場合と、顔を見ながら伝えた場合の感じ方について考えさせた。この活動を通して、同じ言葉であっても、伝え方によって感じ方は異なることにも気付いた。そして、相手の表面的な言動だけでなく、内面的な感情に触れることができ、相互理解の大切さについても理解を深めることができた。

人によって言葉の
受け取り方が変わる

相手の気持ちを考えて発言することが大切

② **授業参観での情報モラル教育**

昨年度の課題であった、「家庭を巻き込んだ情報モラル教育」を推進するため、１２月３日（日）の授業参観時に情報モラルの授業と講演会を実施した。今年度は、あらゆる場面で家庭との連携を深めることを目指してきた。そして、本時では、その試みとして、保護者への情報モラル教育の授業公開を実施した。

本時を通して、実際に保護者が子どもたちの考えや声に触れたことで、子どもたちの身に起こりうる危険等について考える場となり、**保護者への啓発**につながったと考える。また、保護者が授業に参加したことで、保護者自身の情報モラル教育に関する知識や理解を深めることもできたと考える。

２　情報モラル講演会の様子

（１）　第１回情報モラル講演会（４～６年生対象）　９月１９日

講師　郡山女子大学　短期大学部　地域創成学科　准教授　山口　猛　様

情報モラル講演会として、山口先生から４年生から６年生の児童を対象に「メディアとの関わりを考える」と題し、「メディアの特性」や「ネットメディアのトラブル」、「ネット利用と学力の関係」について、講演していただいた。

「メディアの特性」という話では、メディアの種類として「マスコミュニケーション」と「パーソナルコミュニケーション」の２つを挙げながら、それぞれの特徴について話していただいた。新聞のようなマスコミュニケーションは、複数の人が関わって作られ、客観的なものである一方で、パーソナルコミュニケーションは、主観的で共感を得やすく、同じ考えや価値観をもっている人が集い作られるものであるとのことだった。このことを踏まえ、「ネットメディアのトラブル」という話では、インターネットや SNS をもとに「フィルターバブル」や「フェイクニュース」を事例にして、ネットを使用する際の注意点を話していただいた。これらの話を通して、メディア上にある情報は、すべてが正しいわけではないことを考えることができた。また、安全にネットを使うために、自分とは違う意見をもつ人と会話することを大切にし、多様な他者と話をすることで、多くの情報を知り、メディアを安全で便利に使う力が身に付くと話していただいた。さらに、ネット利用と学力の関係を知ることで、時間の使い方やタイムマネジメントについても考えることができた。児童の実態や現状に即した内容であったため、児童の理解

が深まった。

（２）　第２回情報モラル講演会（保護者・後期課程全生徒対象）　１２月３日

講師　郡山女子大学　短期大学部　地域創成学科　准教授　山口　猛　様

情報モラル講演会として、山口先生から保護者・後期課程全生徒を対象に講演していただいた。「**家庭を巻き込んだ情報モラル教育の実施**」という昨年度の課題から、第２回は、１２月３日（日）の授業参観後にＰＴＡの家庭教育学級と連携し、講演会をお願いした。

はじめに、家庭の中で、いつ・誰が・ゲームまたはスマホを・何分くらい使っているかを考えた。その後、スマホの使用時間と学力の関係について紹介していただいた。家庭学習時間が２時間以上であったとしても長時間スマホを使用することで学力は向上せず、スマホ利用のデメリットを確認することができた。また、スマホの使いすぎによる体への影響についても紹介していただき、スマホ利用の危険性も実感した。さらに、オンラインゲームでの課金や個人情報をもとにネットのトラブルについても話していただいた。最後に、生徒と保護者で、マンダラートを使い勉学や健康なくらしを守るためのスマホやゲームのルールについて考えた。生徒はもちろん、保護者が子どものゲームやスマホの利用状況に関心をもち、**家庭での使用方法**に向き合うきっかけとなったと考える。

Ⅲ　成果と課題について

１　成果

○　ＳＮＳやオンラインゲームなどで情報を発信する際の注意すべき点やリスクを自分事として捉えることができるようになった。

○　様々な教科で情報モラルについて指導することで、日常生活の様々な場面が情報モラルと関連していて、場面や状況によって注意すべき点があることを確認することができた。

○　低学年の段階から情報モラル教育の実践に努めたことで、学習や情報活用能力の基盤がつくられ、**９年間の系統的な学び**を深めることができた。

○　学校と保護者との情報モラルに対する認識の差は未だに大きいが、保護者を巻き込みながら（授業参観や保護者対象の講演会など）取り組んできたことで、徐々に**保護者の意識**が高まってきた。

○　昨年度の反省を生かし、ホームページの作成の授業を発達段階に応じて行い、どの学年で

も指導できることを確認することができた。

2　課題

○　保護者の意識は高まってきたが、保護者対象の講演会以外の日常的な場面でもさらに家庭との連携を深める必要がある。

○　発達段階に応じた異学年交流での情報モラル教育の指導内容について、今後も確認・検討を進めていく必要がある。

【引用文献・参考文献等】

・文部科学省（2017）.「小学校学習指導要領（平成 29 年告示）」.

・文部科学省（2018）.「中学校学習指導要領（平成 29 年告示）」.

・宗實直樹・椎井慎太郎(2022).「GIGA スクール構想で変える！ 1 人 1 台端末時代の社会授業づくり」.明治図書.

・坂本旬・芳賀高洋・豊福晋平・今度珠美・林一真(2020).「デジタル・シティズンシップコンピュータ 1 人 1 台時代の善き使い手をめざす学び」.大月書店.

・一般財団法人 LINE みらい財団.「GIGA ワークブックこおりやま」.
https://sites.google.com/fcs.ed.jp/gigaworkbookkoriyama/（参照 2024-2-20）.